



Title	第1章 実証的研究に於ける時点の取扱い
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集6（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内の言及による）。 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77283
Type	manuscript
File Information	X057_011.pdf



No.

實際的研究における時空の取扱い

依據し得る資料が得られなくなり實際的研究

は何れの民族何れの時代に対しても進められ

が支えられ^{（中略）}かゝる如き資料が最も多く最も

確實に得られ^{（中略）}のは自分^{（中略）}民族

の現在における最も容易に最も深く最も

正確に最も全般的に進められ^{（中略）}村

落とか都市とかの如き複雑な社会的

統一性における基本的構造を理するに充分

な資料がどれ丈多くても得られ^{（中略）}のは現在と

「全方眼」

（中略）

云々 然るに、外には到底望むを得ないものはない。
 過去のあゝ時々に相応に多くの史料を得る
 場合がある。これは知りたいたいの九年
 の一生にも値^{及ば}な^ない。我々は社生
 活の全領域に對して破産する案を知りたけ
 る。その組織的^{組織的}な組織を張りなく、理解する事は
 出来な^{ない}。我々には現存^{現存}の資料、一種の社会現
 象の正しい理解^{理解}に、^{それを理解するは、何程にも得られぬ。}資料を
 得て居ない。多くは、まして過去の史実の中
 から知り得るものは、どれ程の不足であらう。

史実を基礎とする研究が、價値多しのいふ
 事は当然であらうが、然しそれは決して学理的
 社会学における基本的な領域にはあり得ない
 とは、^{当然に}得ようと思ふ。社会学における基本
 的構造原理を説明する事は、社会学の最も基
 礎的な事である。かくの如き構造原理の究
 明に必要なのは現在と云ふ時代には到底
 充分に得ようものではないと信ずるであらう。
 社会学における基本的な構造原理は、な
 らざるの部局的要素に過ぎない。研究には史実

を其^レ基^ニをす。研究は色々にあり得る事である。
 けれどもそれ等の研究が、^一實際的社會のための研究
 の主流をなすものは絶対^ニあり得る。

他にそれには

何れも系統的に区別した四つの類型として

例としてあげた。これは、例としてあげた。これは、例としてあげた。

というたのにはない。他民族他時代の都市

これそのものの本質の内たふれは、見本

としてある。むしろ、偶知に無た九

四つの場合であつて、それぞれに四つの類型としてとり出した

それに入ると、これは、一

意味がある

中世ケルマンの都市はその共同体的な

市民社会の成立において、十九世紀二十世紀

人同様にわけ、光輝あり足跡としてうつる。

中世ケルマン

近世都市

計画的都市として、人の住む足跡として

東洋の都市は、通常、その土地の特色を、

同様に、これ等の他民族他時代の都市

五世

これ等の都市は、例としてあげた。これは、例としてあげた。

五世

都市に於て我々が都市を知り得るありゆきも
そのまゝにして居るのみは国民の政治の都市以外にはない

都市の概念を都市の中心の都市に
築くことは困難である。
けれども、都市が政治の都市の概念の上に
概念を決定する。政治は乃ちある。

けい
けい

その四つの都市は何か他

民族他時代の都市である。

私共が知らぬところの都市の基本的構成を

する定は、そのあり方、都市の基本的構成を
知ることがある。

求めよ。それは、
あつてあるか。それを

求めよ。それは、
あつてあるか。それを

都市

此の学を其他に他時代の事案都

市に概念の確立のための研究の基

やくとん

船をあくすははかん多現です

特定のう強ル(き)して考をとなふある

凡例

又は本文の
おけの
現高に附
階しと云
る

一、~~考~~章の終りに附記の項を加へて了ふとす

ろ
か
多
い
。
附
記
は
本
文
に
お
い
ゝ
論
述
し
て
お
く

理論の基礎をなすもの
は、現象論に
ある。現象論は、
現象の根拠を
求める。

出
 入
 2
 戸
 ↓
 場合
 が多い
 特
 に
 附
 記
 の
 項
 を
 設

け
よ
め
は
本
文
に
お
け
よ
論
述
を
簡
明
に
す
よ
為
す

按
 2
 0

引用文の
出所は
本
及
不
限
り
英
文
中
の

場所
下
10/9
;
か
い
し
2
店
2
0

三、各葉の束の
終り附記の
次に附く
二ある

補

註は其の章にて論述した理論と関連多々成
 外の諸著者の意見解と比較すゝ為てあ、
 を批判したいが為てはなく、自分の理論をさ
 うすゝ事によつて、更に明白に得る為てあ
 だ。其の考へた所を限るゝ為には何も述へる
 ない。

四、本書の中には、叙述の順序か、そのお、
 に私の論議の順序を^{を現しては}改して居なへところか
 あり。論議の起^はきはすゝゝ現在に於ける事
 実である。

社会学における現在

社会学は現在における社会的問題を研究対象として、人間の生活の基本的構造を究明せしめることを究明の目的として行われ、そのために、特に現在における資料を採取するのは、人間社会生活の基本的構造を知り、そのためには、人間社会に非ず。共存して居るありやうの分野における社会的問題を観察する必要がある。かくの如き総合的観察を可能ならしめるためには現在以外に存在しない。現在においては、如何なる

、分節の社会的実態も多くの人々が自由に何
 處も行き通して観察する事が出来た。かくの
 如く出来たは現在以外にはない。偶々残存して
 片の記録によつてあつた一節の社会的実態に
 同じく理解し得る事はあつた。得るが然しそれば
 知るが社会生活の全般について知る事が出来な
 い。資料の中のほんの一部である。正に九牛の
 一毛にしか値しない。

右の如き意味で、知るの社会的研究の最期
 の確実な結果としたり又確実な最終の統計の

根據を模倣するものは、現在に於ける時を以て外には
あり得ないといふほか、その現在について一は名の如
く辭解が与へられ、二は所とありてある。

社会的な立場に於ける現在とは、時々の自然
の發展における過剰と必要との境界線を示すこ
ころの端界的な時表下ないものは命題であつて、
私は廣く厚みのある現在と云ふ言葉を以て
来たが、~~その~~嚴格に云ふならば次の條に規定する可
いであらう。

社会的な現在とは、社会生活の主要な型が

変化して片ない。その勘子で意味するところ。此
 の生活の主要な型が変化しない。とはせつ
 と異質的にほんんな勘子であるか。それは取扱
 る同様の関係する能域毎に異なつてある
 例へば宗族に属しての存在は、直子宗族ドリ
 夫婦宗族に移行して、ある状態の始まつた頃から
 了するである。我々おししい法律によつて宗の
 制をなくした。正時から今に至るまで、我々
 のは勿論である。氏種群の傾向はしつと前か
 ら始まつた。とは考へようか。その始めは何時

誤りあるかは所詮し難い。故に偶りに家の係
割が我々廢されん時かゝり思ふのは正しい。

口家といふのは、主權の存在の變動變節が
存在の形態になりゆゑめづかしくある。天
皇制が廢されんは民主制が生れん時等かゝる
日等にか存在である。